

大成奉還

はじめに

今回私が敷地設定に選んだのは福井県福井市に位置する福井城址です。
現在福井城址には福井県庁等が建っています。それが何年後かに移転されるという計画に基づいて設計しました。皆さんはあまり福井県に馴染みがないかもしれませんが、実は満足度、幸福度が全国一位になっています。しかしながら、それと反比例するかのように福井市中心市街地では空き店舗や、シャッター商店街などが目立ち衰退化が進んでいます。福井市では、大空襲と大地震が立て続けに起き、古い建築や古い町並みの姿がありません。唯一昔から残っているものが今回の敷地にも設定した福井城址です。その歴史も巻き込み敷地周辺の街路を計画して福井市の街づくりをはかりました。



水谷 朋幸
建築設計計画研究室

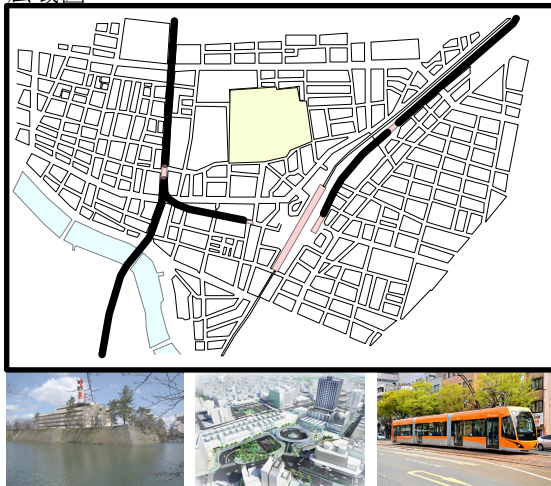
敷地説明

場所：福井県福井市大手三丁目十七番一号
用途：福井県行政の中核機関
主構造物：行政庁舎、県警本部庁舎、議会議事堂
敷地面積：21,047.93㎡
建築面積：3,610.64㎡（行政庁舎）
延床面積：43,137.30㎡（行政庁舎）
階数：地上11階、地下3階（行政庁舎）
高さ：45m（行政庁舎）

福井駅から徒歩3分の場所にあり、現在福井城跡には福井県行政機関が建っている。



広域図



コンセプト

私が提案する建築のコンセプトが「過去と現代を結ぶもの」というものです。具体的には、古いものには新しい要素を、新しいものには歴史的要素を取り入れます。古いものというのは、昔からある石垣の堀、新しいものというのは、今回設計した建築のことです。そしてこの建築に取り入れる施設は、過去のもものが蓄積されていくという意味で美術館と図書館の複合施設です。



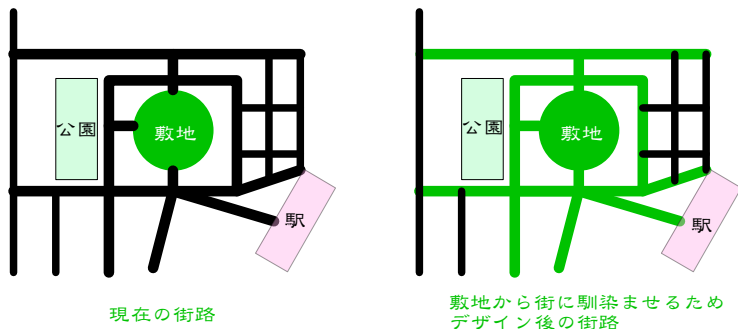
今まで受け継がれてきた伝統や歴史が近年後継者不足などによりその記憶や記録がだんだん薄れてきている。このままだと未来では昔から守られてきたものが消えてしまう可能性がある。それをこの場所ですべて人の中に残したい。



デザイン

道のデザイン

街に対して開かれ、開放的な空間を設計しながらもその建築が街と一体化しないと、浮いてしまう。
街と一体化しつつ、景観を壊さず、街のシンボルとなるには周辺を巻き込んだ、街路のデザインだと考えた。
基本的に車通りの多い場所と駅からのアプローチを重点的にバランスをとりながら計画をした。

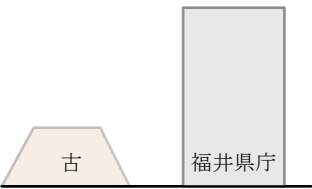


近年地方都市（福井県）では昔から守られてきた、伝統工芸等の跡継ぎがいなくなり、その伝統工芸品も消えつつある。そこでこの施設を利用して壁に地元民の写真をプリントしたものを展示物の一つとして出来ている。そこで例えば、旅行で県外から訪れた人々にも福井県ならではの伝統工芸や作業している姿を写真を通して知る事が出来る。その展示品のコンセプトとしてはその町に生きつく人々の素顔というものでやっている



施設内の内壁に地元民の写真がプリントされている様子

現在



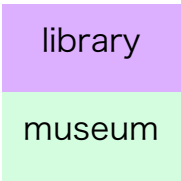
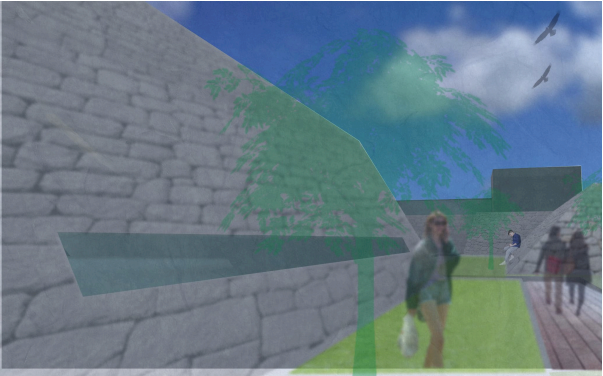
今現在唯一歴史を感じれる場所は福井市街地では福井城址の堀である。しかし、その歴史を無視したように高層ビルが建っている。ただでさえ、お堀という物だけでも圧迫感がでていて人が入りづらくなっている。

未来



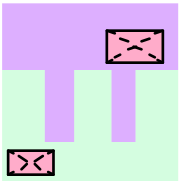
古いもの、歴史のあるものは過去から大事に守られてきた。その堀を尊重してもらう為には、人々の堀に対する興味を引きつけなければならない。そのため昔の古い堀と比較できる物を作った。比較対象を作る事により、人々は歴史あるものに興味を持ち未来でも守られていく物になっていく。

もともとある歴史的な堀を尊重して、低層で新しく設計する建築の壁を既存の堀の傾斜と同じ角度にして、古い、歴史的な要素を取り入れています。そうすることで、新しい堀というものが形成されます。よって、人が利用する散歩コースは古い堀と新しい堀に囲まれ、過去と現代をたしなみながら利用することができます



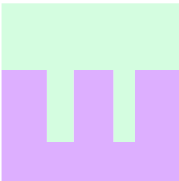
IFL DIAGRAM FIRST

図書館と美術館を複合させる。図書館や美術館は過去の物の知識や作品が積み重なっていく。



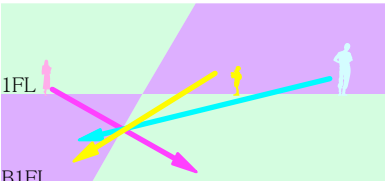
IFL DIAGRAM SECOUND

美術館と図書館の施設をお互いのゾーンに侵入させお互いの要素をめり込ませる。



BIFL DIAGRAM

地下に移るとお互いのゾーンが入れ替わり広い面積で各施設が複合できる。



SECTION DIAGRAM

地下に移るとお互いのゾーンが入れ替わり広い面積で各施設が複合できる。

図書館と美術館をただ複合させるだけでなく、美術館と図書館の施設をお互いのゾーンに侵入させお互いの要素をめり込ませるようにしています。更に吹き抜けの部分では、お互いの違う要素が垣間見え図書館と美術館の境界を和らげています。



古い歴史的な堀に囲まれている建築は堀を貫通させ敷地外部にもその施設の存在を表しています。それと同時に古いものには新しい要素を取り入れています。そうすることによって敷地外部にも開放感が生まれ、新しく生まれ変わろうとしている福井市にとけ込むこともできます。右図のパースは福井駅方面の入り口からのものですが、ご覧の通り堀の上にもブリッジ状の建築や、カフェのテラス席が堀を貫通して敷地外部にも存在を示していて新しく生まれ変わった福井城址で旅行者などを迎え入れている様子が伺える。